

1. 略歴

1990年4月	東京藝術大学美術学部芸術学科入学
1994年3月	東京藝術大学美術学部芸術学科卒業
1994年4月	東京藝術大学大学院美術研究科日本・東洋美術史専攻修士課程入学
1996年3月	東京藝術大学大学院美術研究科日本・東洋美術史専攻修士課程修了
1996年4月	東京藝術大学大学院美術研究科美術専攻博士後期課程入学
2000年3月	東京藝術大学大学院美術研究科美術専攻博士後期課程修了、博士（美術）の学位取得
2000年4月	日本学術振興会特別研究員（PD）（2003年3月まで）
2004年4月	財団法人和文華館学芸部部員（2005年9月まで）
2005年10月	東京工業大学大学院社会理工学研究科価値システム専攻助教授（2007年3月まで）
2007年4月	同 准教授
2012年4月	東京大学大学院人文社会系研究科准教授

2. 主な研究活動

a 専門分野

日本美術史、主として中世絵画史

b 研究課題

中世やまと絵の研究、絵巻の研究

c 概要と自己評価

日本における権力と造形の関係を通史的に考察する『天皇の美術史』（全6巻、吉川弘文館、2017～18年）の企画と編集に携わり、担当巻において中世絵巻と天皇の関係について総合的分析を行った。並行して、「絵巻マニア列伝」展（サントリー美術館）、「道成寺と日高川」展（和歌山県立博物館）の展覧会企画に参加することで、絵巻の作品研究および一般への啓蒙を果たすことができた。これら研究を総括し、中世絵画史に関する著書としてまとめる予定である。そのほか、コロンビア大学における日本美術史の講義や、日本美術史に関する国際大学院生会議（JAWS）の開催を通じて、国内外の若手研究者育成も進めている。

d 主要業績

(1) 著書

- 共著、高岸輝、『東大教師が新入生にすすめる本 2009-2015』、東京大学出版会、2016.3
- 共著、高岸輝、『尼崎市制100周年記念 新「尼崎市史」 たどる調べる 尼崎の歴史 下巻』、尼崎市、2016.10
- 共著、高岸輝、『絵巻マニア列伝』、サントリー美術館、2017.3
- 共著、高岸輝、『天皇の美術史 第3巻 乱世の王権と美術戦略』、吉川弘文館、2017.5
- 共著、高岸輝、『病草紙』、中央公論美術出版、2017.5
- 共著、高岸輝、『道成寺と日高川—道成寺縁起と流域の宗教文化—』、和歌山県立博物館、2017.10
- 共著、高岸輝、『日本文学の展望を拓く 第2巻 絵画・イメージの回廊』、笠間書院、2017.11

(2) 論文

高岸輝、「室町土佐派と縁起絵巻の再生」、『聚美』、19号、9-31頁、2016.4

(3) 書評

- 高橋伸幸、『戦国武将と念持仏』、『日本歴史』、816、118頁、2016.5
- 安松みゆき、『ナチス・ドイツと〈帝国〉日本美術』、吉川弘文館、『日本歴史』、818、119頁、2016.7
- 塩澤寛樹、『仏師たちの南都復興』、吉川弘文館、『日本歴史』、820、119頁、2016.9
- 林進、『宗達絵画の解釈学』、『日本歴史』、822、119頁、2016.11
- 玉蟲敏子、『日本美術のことばと絵』、KADOAKWA、『日本歴史』、824、153頁、2017.1
- 高島幸次、『奇想天外だから史実』、大阪大学出版会、『日本歴史』、826、120頁、2017.3
- 大久保純一、『北斎 HOKUSAI』、KADOKAWA、『日本歴史』、828、117頁、2017.5
- 酒井忠康、『芸術の海をゆく人』、みすず書房、『日本歴史』、830、120頁、2017.7
- 豊永聡美、『天皇の音楽史』、吉川弘文館、『日本歴史』、832、119頁、2017.9
- 恋田知子、『異界へいざなう女』、平凡社、『日本歴史』、834、120頁、2017.11

(4) 解説

高岸輝、「土佐雅楽助国綱兄弟筆 涅槃図」、『国華』、1458、54-56 頁、2017.4

(5) 学会発表

国際、高岸輝、「モンゴルの衝撃—花園天皇と十四世紀の日本絵画」、蒙元與中亞、東亞之藝術交流學術工作坊、台湾・中央研究院歴史語言研究所、2016.12.9

国内、高岸輝、「日本美術史における国際化とその更新」、東方学会創立 70 周年記念大会シンポジウム「東方からの東方学—その多様性と可能性—」、東京大学山上会館大会議室、2017.6.17

国内、高岸輝、「後三年合戦絵巻」の変貌—古代から近代まで—、東京大学駒場博物館所蔵第一高等学校絵画資料修復記念「知られざる明治期日本画と「一高」の倫理・歴史教育」展 記念シンポジウム、東京大学駒場博物館、2017.12.2

(6) 啓蒙

高岸輝、五十嵐公一、橋本麻里、「美術史の魅力と愉しみ（鼎談）」、『本郷』、127、2-11 頁、2017.1

(7) 予稿・会議録

国内会議、鈴木親彦、高岸輝、北本朝展、「IIF Curation Viewer が美術史にもたらす「細部」と「再現性」—絵入り本・絵巻の作品比較を事例に」、人文科学とコンピュータシンポジウム、大阪市立大学、2017.12.8
157-164 頁、2017.12

(8) 会議主催(チェア他)

国際、「International Workshop on Japanese Art History for Graduate Students」、実行委員、2017.3.9~2017.3.16

(9) マスコミ

「天皇と美術の関係を探る—見えてくる新たな時代観と美術史像」、『週刊読書人 3177 号』、2017.2.17

「帰洛を夢見た流浪の將軍—足利義昭と「道成寺縁起」」、『産経新聞 朝刊 文化面』、産経新聞社、2017.12.5

(10) 展示

「絵巻マニア列伝」、高岸輝、2017.3.29~2017.5.14

「道成寺と日高川—道成寺縁起と流域の宗教文化—」、高岸輝、2017.10.14~2017.11.26

3. 主な社会活動

(1) 他機関での講義等

客員教授、Columbia University, Emperors (Tennō) in Medieval Japanese Art History, 2017.2~2017.4

特別講演、Columbia University, Japanese Narrative Handscrolls (Emaki): Emperors, Shoguns, and Landscapes, 2017.4

非常勤講師、大阪大学大学院文学研究科・文学部、「日本美術史特殊講義（日本美術史講義）」、2017.9

特別講演、和歌山県立博物館、「日本無双の縁起、「道成寺縁起絵巻」の謎をさぐる—絵師、成立年代から、最後の將軍・足利義昭の鑑賞まで—」、2017.11

(2) 学外組織(学協会、省庁を除く)委員・役員

美術史学会、常任委員、2013.6~2017.5

国際美術史学会 (CIHA)、国内委員会、委員、2014.6~

国文学研究資料館、運営会議 委員、2016.4~